

「ペトロの失敗」

マルコによる福音書14章66～72節

法人事務局人事部長 佐藤 聡

66 ペトロが下の中庭にいたとき、大祭司に仕える女中の一人が来て、67 ペトロが火にあたっているのを目にすると、じっと見つめて言った。「あなたも、あのナザレのイエスと一緒にいた。」68 しかし、ペトロは打ち消して、「あなたが何のことを言っているのか、わたしには分からないし、見当もつかない」と言った。そして、出口の方へ出て行くと、鶏が鳴いた。69 女中はペトロを見て、周りの人々に、「この人は、あの人たちの仲間です」とまた言いました。70 ペトロは、再び打ち消した。しばらくして、今度は、居合わせた人々がペトロに言った。「確かに、お前はあの連中の仲間だ。ガリラヤの者だから。」71 すると、ペトロは呪いの言葉さえ口にしながら、「あなたがたの言っているそんな人は知らない」と誓い始めた。72 するとすぐ、鶏が再び鳴いた。ペトロは、「鶏が二度鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」とイエスが言われた言葉を思い出して、いきなり泣きだした。

本日は、12弟子の一人であるペトロがイエスを知らないで3度否定する場面を通して、皆さんとご一緒に考えたいと思います。

ペトロは12弟子の中でも中心的な人物であり、相当な自信家でもありました。しかし、イエス様が十字架にかけられる時が来ると弟子達は皆イエスを見捨てて逃げしまうとイエス様から予告されると、ペトロは、「たとえ、皆が躓いても私は躓きません。」と強く宣言するのですが、イエス様は、ペトロがイエス様を知らないで3度否定することを予告されると、益々憤慨して、たとえイエス様といっしょに死ななければならない状況になったとしても、イエス様を知らないなどは決して言わないと語気を強めて言い放ちます。やがて、ゲッセマネの園でイエスが捕らえられると弟子たちは皆、イエスを見捨てて逃げってしまうのですが、同じように逃げたペトロは、大祭司のもとに連行されていくイエス様の後をひそかに追って大祭司の屋敷の中庭まで入り、中の様子を見守っていた時に起きた様子が先ほどお読みいただいた聖書(マルコ14章66～72節)の場面です。

ペトロは、イエス様の12弟子のひとりとして選ばれてから3年余りの間、イエスと寝食を共にして親しく教えられ、愛されたイエス様をなんと知らないで3度も否定するのです。3度目の否認は、のろいをかけて誓ってまで否定するのです。そしてペトロは、「鶏が二度鳴く前に三度私を知らないと言うだろう」とイエス様に予告された言葉を思い出して激しく泣くのです。イエス様を裏切った瞬間、ペテロは、自分がいかに弱く、惨めで、自己保身に満ちたちっぽけな者であるかを知ることになったのではないのでしょうか。自分の思いはどんなにか強くとも、いざ極限状況になると自分がいかに無力な者であるかを思い知らされたのだと思います。皆さんも、人との信頼関係において絶対大丈夫と確信していた事柄が、もろくも崩れ去るような出来事に遭遇する時、本当の自分の姿に気づかされ、とことん落ち込むような経験をされたことがあるのではないのでしょうか。

この後、十字架から復活されたイエス様が、ペトロや弟子たちとガリラヤ湖で再会する場面がやってきます。

そこでイエス様はペトロに「あなたは、この人達以上に私を愛しますか」と尋ねるのですが、これに対してペトロは「私があなたを愛していることは、あなたをご存知です。」と答えると、イエス様が再び「わたしの小羊を飼いなさい。」と言われます。この応答が三度も繰り返されるのです。この時、ペトロの心の内はどんな思いだったのでしょうか。イエス様を知らないで三度も否んだこの悲しい出来事によって、ペトロはイエス様の深い愛を経験することになりました。そしてペトロの新たな信仰の出発点となったのです。

私たちが失望落胆するような時に、イエス様は新たな事を起こして私たちに新たな気づきを起こさせ、次の出来事に導かれることがきっとあるのではないのでしょうか。困難に遭遇して挫折を味わう時にイエス様が一番の助け主であることを覚えることができれば、本当に幸せであると教えられました。

2020年1月8日 聖学院大学 全学礼拝